

こくみん共済 coop 慶應義塾大学寄附講座

「公共私による新しい福祉価値の創造－新しい福祉価値をどのように生み出すか－」

第2回 2025年10月16日

「資本市場が変える未来の社会 ～お金の流れと Well-being～」

三菱UFJ信託銀行株式会社 エグゼクティブアドバイザー 石崎 浩二氏

■社会インパクト投資 ～増殖するマネー資本～

三菱UFJ信託銀行では23年間、赤字事業の再生に取り組み、その後の15年間は新規事業創出に取り組んでいます。現在は「高齢者事業／地方創生」、「内閣府社会包摂／オルタナティブデータ」、「新規事業創出／ベンチャー支援」の三つの領域で6枚の名刺を使いさまざまな仕事をしています。

今日は、まず社会インパクト投資の話をしていきましょう。社会インパクト投資は歴史が古く、1920年から1999年までは酒・煙草・ギャンブル・ポルノなどを排除した倫理重視のSRIでした。その後、2000年からは新興国の急成長を背景に、新興国は単なる生産者ではなく同時に消費者であるという共存が進み、グローバル投資CSRが流行ります。それからリーマンショックの後は共存が難しくなり、AIブームによる労働力の変化やパリ協定での継続への意識の高まりからサステナブル経営へと移り変わり、それがさらに発展して2019年以降、企業は何のために存在するのかを重視するパーパス経営が流行っています。

ここでSDGsをおさらいしておくと、SDGsとは17のゴールであり「誰一人取り残さない」がキーワードです。日本の達成度は167ヶ国中2020年で17位、2024年は24位となり、少し下落しています。SDGsというゴールを達成し持続するためにはお金を回すことが必要です。そのための手段としてESG投資が注目されました。ただし、ESGのムーブメントも少し潮目が変わってESGの新規設定が減ってきており、一過性の翳りが見え始めています。

三菱UFJ信託銀行とかんぽ生命が、ジェンダーギャップの解消を目的に投資をするというニュースが話題になりました。運用方針は社会的なインパクトと投資リターンの両立なのですが、これは実はトレードオフの関係にあります。例えば脱炭素は良いことですが、一方では石炭会社の雇用を喪失してしまいます。そのバランスをどうとって、公平に持続可能なものをどう作っていくか。具体的には、老朽化が進む道路や橋を長寿命化する補修工事を485件実施しているショーボンドや、ベビーシッターや保育サービスを3.3万世帯に提供するポピンズなど、具体的な成果を上げた会社をピックアップして投資していく方針です。

三菱UFJ信託銀行では社会課題を解決するということが大命題になっていて、新事業としては少子高齢化を解決するために老人ホームや保育園に投資するシルバー金融事業、地方を活性化するための地産地消の再生可能エネルギーに投資するインフラ投資事業、そこから得たデータを活用するオルタナティブデータ事業、この3つの事業を柱に社会の課題解決に取り組んできました。

■資本主義の光と影 ～パイは大きくなったのに、広がる格差～

ここまでは、お金があれば社会の課題が解決できるという話でした。ここからは、良い話ばかりではなく副作用の話もあえてしたいと思います。その前にまず資本主義の変遷を振り返ってみまし

よう。資本主義は、実はまだ 200 年程度の浅い歴史しかありません。私たちがよく知っているのは戦後の福祉国家資本主義で、その後どんどん膨張して新自由主義的資本主義の時代になり、この時期に共産主義が破綻して新自由主義が加速します。しかしリーマンショックの影響で「本当に持続可能なのか」がテーマとなり、持続可能型資本主義が登場し、今日のような議論がなされるようになったという変遷です。

資本主義の恩恵を僕らが被る裏側で、例えば液晶テレビやスマホの発達の裏にはレアメタル争奪の内戦に少年兵が駆り出される現実があり、ファストファッションの裏には児童労働の問題があり、電気自動車の普及の裏にはリチウムを発掘する地域の水の吸い上げ過ぎによる環境問題が起きています。環境破壊は大きな問題で、日本の環境基準は世界と比べると緩いのですが、全てが緩いわけではないので自分の目で見ることが大切です。もう一つ、中間エリートが没落していることも問題です。グローバリズムの影響で安い労働力が入ってくることで、中間層が没落し、高学歴が保障されない時代になっています。

分断していく世界という意味では、民主党の青の世界から共和党の赤の世界への揺り戻しが起きていて、アメリカ社会は分断しています。SDGs 疲れも深刻で、過去に環境破壊して利益を得た先進国とこれから経済発展する新興国の間での溝をどう埋めていくかが課題です。日本経済社会の構造的問題も見てみましょう。一番の問題は、賃金が長期間低迷していることです。高度成長期は年功序列で終身雇用なので格差は小さかったのですが、新自由主義では成果主義や学歴同類婚などの影響で格差が広がっています。

この背景にあるのが、メインバンク制の崩壊です。持ち合い解消が進められた結果、不安定な資金調達となり、企業は内部留保を確保します。賃金が伸び悩む一方、内部留保は大幅に増加するとともに、株主への配当金や自社株消却にお金を使っています。円安インフレで名目上の経済規模は拡大していますが、庶民の生活は苦しくなるばかり。こうした中で日本の Well-being は、G7 最下位となっています。お金より仕事の価値観が大切かという価値観は、若い世代の間で完全に二極化しています。

■私たちにできること ～おかしいと思ったことは放置しない～

光と影の両面の話をしました。世の中は割り切れるものではなく、皆さんは正解のない中で妥当解を見つけていくことになります。右か左ではなく、その間に自分達の答えがあることを考えてみてください。では自分達にできることは何でしょうか。自己責任論は本当でしょうか？生活保護は努力不足か、ホームレスは自己責任か。慶應義塾大学経済学部は偏差値 67.5 です。

これは超エリートといえます。その親の推定年収は 1500 万円、この年収を得ることができるのは 0.9% しかいません。曖昧な資本主義 VUCA の時代を生き抜くためには溢れるフェイクの中から正しい情報を入手することが大切です。二律背反する中から固有解、妥当解を創り出す。そのためには意見の異なる人と議論することが大事です。リベラルアーツは欲望から自由になるための学問であり、皆さんをあえてエリートと言いましたが、大いなる力には大いなる責任が宿ります。おかしいと思うことは放置しないでください。頂いた GIFT を活かし、利他心の GIFT が循環する包摂する経済社会を創るリーダーシップを期待しています。

<文責：こくみん共済 coop >